



## 『広域医療連携センター』 スタート!

### CONTENTS

- ご挨拶 ..... P.2
- 広域医療連携センター室長の紹介 ..... P.3
- 新任科長の紹介 ..... P.4
- 新任センター長の紹介 ..... P.5
- 医療連携室から ..... P.5
- 診療科からのお知らせ ..... P.6
- 編集後記 ..... P.6

9月1日より、「病院医療相談部」は「広域医療連携センター」に名を改め、新たなスタートを切りました。

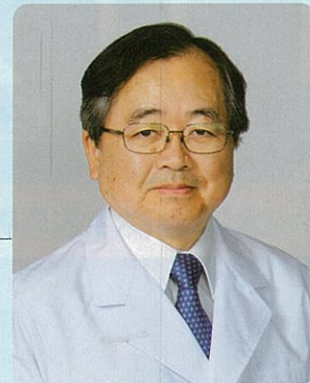
目指すのは、患者さまを中心とした垣根のない医療連携。

今まで以上に医療機関、福祉機関の皆さまとの連携を深め、当院を利用されるすべてのの方々にとって当センターが価値あるものとなりますよう、スタッフ一同頑張ります!

## ご挨拶

病院長

黒岩 敏彦



平成24年4月1日より、附属病院長を拝命しておりますので一言ご挨拶を申し上げます。平成12年より脳神経外科の責任者として務めてまいりましたが、今まで病院運営に直接関わることはございませんでした。

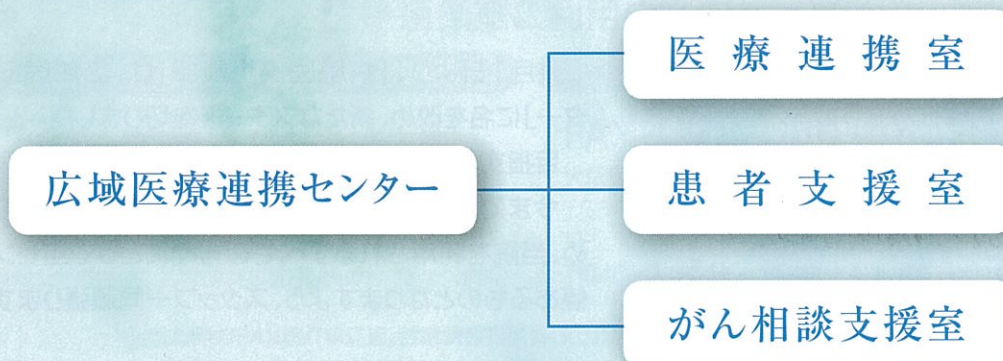
大学附属病院の役割は、診療・教育・研究の3本柱に加え、地域・社会貢献であると認識しています。大阪医科大学附属病院が患者さまにとって安心と満足のいただける素晴らしい病院となりますように、努力していきたいと思っておりますので、何卒宜しく願い申し上げます。

## 広域医療連携センター発足にあたって

広域医療連携センター センター長

黒岩 敏彦

6月1日より従来の病院医療相談部を広域医療連携センターに改組・改称して私がセンター長を兼任し、9月1日付で正式に発足しました。当センターは、医療連携室・患者支援室・がん相談支援室に分かれ、それぞれ専任もしくは兼任の室長(医師)を擁し、スタッフ総勢は三十名を超えております。病病連携、病診連携をさらに密にし、入院まで、そして退院後も引き続き切れ目のない円滑な医療を提供する目的で設置いたしました。



広域医療連携センター室長の紹介 ● 医療連携室 / 患者支援室 / がん相談支援室



医療連携室 室長  
木村 文治  
(きむら ふみはる)

広域医療連携センター設立に伴い、医療関係者へのサービス向上に特化した形で組織された『医療連携室』室長に就任いたしました。従前より、疾患別医療連携として、医師会主導型地域連携バスなどの運用にあたり、多くのご協力をいただいております。これまで培われてまいりました医師会をはじめとする関係各所との連携基盤をますます強固にし、目的意識の共有化、円滑なコミュニケーションの充実、より一層の信頼関係の構築に努めてまいりたいと存じます。

今後とも、地域医療を支えるチームの一員として、『医療連携室』は地域医療への貢献をさせていただきたく存じます。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

略 歴	昭和53年 大阪医科大学卒業 同第一内科へ入局 平成2年 米国ペイラー医科大学留学 平成8年 大阪医科大学附属病院(講師) 平成9年 清恵会病院副院長 平成13年 大阪医科大学附属病院(第一内科)講師復職 平成16年 大阪医科大学附属病院 神経内科診療科長 平成23年 大阪医科大学附属病院(第一内科)准教授
特技/趣味	読書と音楽鑑賞
頭痛専門医、内科専門医、神経内科専門医、日本脳卒中学会認定医 日本神経学会(代議員)日本頭痛学会(評議員)	



患者支援室 室長  
亀谷 英輝  
(かめが い ひでき)

本年6月より『患者支援室』室長を拝任いたしました。

大学病院では産科・内分泌科の診療科長として、外来診療も担当しておりますが、この度『患者支援室』において、医療・福祉・保健の連携推進を行っていくこととなりました。『患者支援室』とは、入院患者さまの療養環境を高め、不安の軽減を図り、治療に専念できるよう支援する組織です。

新しい医療の連携の中で、患者さまの「力」となるよう尽力してまいり所存ですので、よろしくお願いたします。

略 歴	昭和59年6月 大阪医科大学附属病院で臨床研修開始 昭和62年4月 大阪医科大学助手(産婦人科学教室) 平成10年4月 大阪医科大学講師(産婦人科学担当) 平成18年7月 大阪医科大学附属病院 産科・内分泌科 科長 平成19年2月 大阪医科大学准教授
特技/趣味	楽器演奏、スノーボード、バイクツーリング
日本産科婦人科学会専門医、周産期(母体胎児)専門医、母体保護法指定医	



がん相談支援室 室長  
福田 彰  
(ふくだ あきら)

この度、広域医療連携センターの『がん相談支援室』室長を拝命いたしました。がん患者さまご本人やご家族に関わる医療相談や支援は、診療面のみならず、精神的・経済的な諸問題を含め、非常に広範囲にわたります。がん患者さまの支援体制には、密接な医療連携が非常に重要となります。

当院はがん診療拠点病院の一つに指定され、がん相談支援に関して豊富な経験を積んだスタッフが揃っており、専門的なノウハウはほぼ確立されております。がん相談支援室の果たすべき役割を踏まえ、皆様方のご指導ご鞭撻のもと、微力ながら貢献できればと考える次第です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

略 歴	昭和60年 大阪医科大学卒業 第一内科入局 平成6年 大阪医科大学 助手(第一内科) 平成13年 大阪医科大学 学内講師(第一内科) 大阪医科大学附属病院 消化器内科(肝胆膵)医長 平成21年 大阪医科大学 講師(第二内科)
特技/趣味	読書、テニス、音楽、旅行(行きたいけれど、なかなか行けない)

## 新任科長の紹介 ● 腎臓内科 / 脳神経外科 / 整形外科



腎臓内科 科長  
森 龍彦  
(もり たつひこ)

腎臓は「元氣」のためにあります!!体重の約60%の水に約60兆個の体細胞が浸かっていると考えてください。この水が、腎臓により厳格に好ましい状態に維持されることで、細胞たちが元気に機能を発揮できます。腎障害の合併にて、生命予後は悪化します。初期からの腎障害進展抑制が大切です。

当科では、軽度の蛋白尿、尿潜血の持続のみで、専門施設に送るかどうか迷う症例を積極的に診させていただき、『腎炎スクリーニング外来』を開設いたしました。将来進行が予想されるタイプの腎炎でも、腎生検などにより早期に診断し治療を開始することで、治癒を目指すことができます。専門的治療が必要と判断された場合には、引き続き当院での治療を継続しますが、安定した腎炎や腎不全については、地域の医療機関と連携しての診療を行ってまいります。今後ともご指導、ご支援を賜りましたら幸いに存じます。

診療科	腎臓内科	専門分野	腎炎、腎不全、高血圧
資格	腎臓内科専門医、総合内科認定専門医、循環器専門医、高血圧専門医、日本高血圧学会特別正会員(FJSH)		
略歴	1989年 大阪医科大学 卒業 1997年 米国アラバマ州立大学 バーミングハム校 2001年 大阪医科大学 内科学助手 2011年 大阪医科大学 内科学講座内科学 講師(准) 2012年 大阪医科大学附属病院 腎臓内科 科長		
特技/趣味	散歩、昼寝、考え事		



脳神経外科 科長  
宮武 伸一  
(みやたけ しんいち)

この度、4月1日付で脳神経外科学教室科長を拝命いたしました。黒岩敬彦病院長ともども、本学の脳神経外科を発展させるため、微力ではございますが、努力してまいります。

黒岩院長が科長としてご活躍されていた頃より、当教室は悪性脳腫瘍の症例が集中し、西日本では有数の施設として認知されております。私も原子炉を利用した腫瘍選択的粒子線治療である、ホウ素中性子捕捉療法を京都大学原子炉実験所の先生方と協力して推進し、全国から悪性脳腫瘍の患者さまをご紹介いただいております。近々、世界初の院内設置型小型加速器を用いた治療を当院で行う予定です。

また、高線量放射線治療の宿命である脳放射線壊死の診断と治療にも力を注ぎ、本学が主体となり、全国17施設にご参加いただいている高度医療(第3項先進医療)「症候性脳放射線壊死に対する核医学的診断とペバシズマブによる治療」を多施設臨床試験として展開中であり、この面でも全国から患者さまが集中しております。

地域に密着した脳神経外科医療に加え、悪性脳腫瘍の治療機関として世界に通用する医療を提供できる施設として、全国から患者さまが来られるような優れた教室を目指しておりますので、ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

診療科	脳神経外科	専門分野	脳腫瘍の治療と核医学的診断
資格	日本脳神経外科学会評議員(代議員)、日本脳腫瘍学会理事、日本遺伝子治療学会評議員 日本中性子捕捉療法学会幹事、International board councilor of Neutron Capture Therapy 日本再生医療学会評議員、日本がん治療認定機構暫定教育医、日本定位放射線治療学会世話人		
略歴	昭和55年3月 京都大学医学部 卒業、 6月 京都大学医学部附属病院 脳神経外科学教室入局 昭和63年2月 同脳神経外科学教室助手 平成5年1月 米国Georgetown大学留学(平成7年まで) 平成6年4月 京都大学医学部附属病院 脳神経外科学教室講師 平成12年7月 大阪医科大学 脳神経外科学教室講師 平成13年4月 脳神経外科学教室助教授 平成24年4月 脳神経外科科長、 6月 脳神経外科学教室特任教授		

日本脳神経外科学会評議員、遺伝子医療研究会幹事、日本脳腫瘍学会理事、日本遺伝子治療学会評議員、日本中性子捕捉療法学会幹事、International board councilor of Neutron Capture Therapy、日本再生医療学会評議員



整形外科 科長  
根尾 昌志  
(ねお まさし)

この度、7月1日付で整形外科教室を担当させていただくことになりました。

脊髄外科を専門とし、髄内腫瘍を除く脊椎脊髄疾患全般を取り扱います。前任の京都大学では、特に上位頸椎手術、頸椎のインストゥルメンテーション、脊髄腫瘍、胸椎OPLLなど高難度高リスクの手術を中心に治療してまいりました。今後これらの手術をできるだけ安全に施行できる機器やシステムを早急に整備し、皆様のご期待に応えたいと考えております。

さらに、脊椎脊髄疾患に限らず、大阪医科大学に求められるニーズに合わせ、地域に密着して、整形外科疾患全般を幅広く取り扱ってまいり所存でございます。皆様にはご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

診療科	整形外科	専門分野	脊椎・脊髄外科
資格	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会指導医		
略歴	昭和58年3月 京都大学医学部 卒業 平成5年3月 京都大学大学院医学研究科博士課程(外科系専攻)修了 平成6年1月 ベルリン自由大学ベンジャミン・フランクリン病院留学 平成10年10月 京都大学整形外科学 助手 平成14年4月 京都大学整形外科学 講師 平成20年4月 京都大学整形外科学 准教授 平成24年7月 大阪医科大学整形外科学教室 教授		
特技/趣味	クロスアップマジック		

## 新任センター長の紹介●血液浄化センター／臨床治験センター



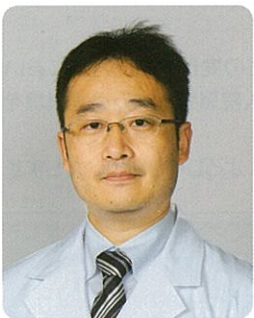
血液浄化センター  
センター長  
**東 治人**  
(あずま はるひと)

この度はこのようなご挨拶の機会を与えていただき誠にありがとうございます。本年4月より、『血液浄化センター』を担当することになりました。本誌をご覧いただいている先生方におかれましては、常日頃から多数の患者さまをご紹介いただきまことにありがとうございます。

私どもは、当センターが担う役割「地域医療の中核施設」として、地域に根差した医療に取り組んでいきたいと考えております。年々増加する糖尿病性腎症からの透析導入、あるいは維持透析中の患者さま方の手術治療に伴う入院透析など、血液浄化を中心とした診療を通じて、先生方の日常臨床に少しでも寄与できるよう尽力してまいります。

今後のさらなる医療連携の発展と充実を目指して！ これまで同様のご支援、そしてご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

部 署	血液浄化センター	専門分野	腎移植・移植免疫学、腎不全・透析、血液浄化・腫瘍免疫学
資 格	移植認定医、臨床修練指導認定医、日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医、泌尿器科腹腔鏡技術認定医、内視鏡外科学会技術認定医、日本がん治療認定医機構、がん治療認定医		
略 歴	昭和63年3月 大阪医科大学 卒業 平成4年8月 アメリカ合衆国ハーバード大学 外科学教室留学 平成7年12月 大阪医科大学 助手(泌尿器科学教室) 平成11年9月 大津赤十字病院 泌尿器科副部長 平成15年4月 大阪医科大学 講師(泌尿器科学教室) 平成18年7月 大阪医科大学 助教授(泌尿器科学教室) 平成23年4月 大阪医科大学 教授(泌尿器科学教室) 平成24年4月 血液浄化センター センター長		



臨床治験センター  
センター長  
**後藤 昌弘**  
(ごとう まさひろ)

この度、4月1日付で臨床治験センター長を拝命いたしました。

治験は、画期的な医薬品や医療機器を我が国の医療現場に速やかに導入し、世界最高水準の医療を提供するために必要不可欠なプロセスです。また同時に、各医療機関においては重要な収益事業の一つでもあります。国内全域で治験実施環境が整備され、治験依頼企業もより多くの選択肢の中から、症例集積スピードが速く、質の高い施設に依頼することが可能となってまいりました。我々の施設も、この厳しい治験の競争社会を生き抜いていかなければなりません。

文部科学省と厚生労働省により「臨床研究・治験活性化5か年計画2012」が新たに策定された本年、大学病院として必要な治験を見極めながら、院内外の啓蒙活動を行っていきたくと考えております。何卒ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

部 署	臨床治験センター	専門分野	臨床腫瘍学
資 格	日本内科学会認定医、日本消化管学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・がん薬物療法暫定指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医・がん治療暫定教育医		
略 歴	平成5年3月 大阪医科大学 卒業 平成11年1月 国立がんセンター中央病院 消化管内科医員 平成14年4月 大阪医科大学 助教(第二内科学教室) 平成21年4月 大阪医科大学附属病院 講師(化学療法センター) 平成24年4月 大阪医科大学附属病院 講師(治験センター長)		
特技/趣味	ジョギング		

## 医療連携室から

去る7月21日、ホテルグランヴィア大阪にて毎年恒例の「四医師会大阪医科大学附属病院医療連携の会」を開催させていただきました。

開会のあいさつ後、森龍彦(腎臓内科科長)が「腎スクリーニング外来始めました」、植野高章(歯科口腔外科科長)が「いつまでも美味しい食事を口から-命を支える歯を大切に」、宮武伸一(脳神経外科科長)が「夢の粒子線治療、ホウ素中性子捕捉療法」と題して講演を行いました。

講演会終了後にはホテル自慢の美味しいお料理とともに、歓談のひとときを過ごしていただきました。

当院の取り組みを知っていただき、また各医療機関さま同士が交流を深める良い機会としていただけたのではないかと思います。



診療科からのお知らせ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

標榜科の変更—「耳鼻咽喉科」から「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」へ—



耳鼻咽喉科・頭頸部外科  
科長

河田 了  
(かわたりょう)

「耳鼻咽喉科」は、本年6月より、「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」に診療科名を変更いたしました。「頭頸部」とは英語のhead and neckの訳語で、首から上の構造の総称であります。頭頸部のうち、脳は脳神経外科が、眼窩・眼球は眼科が、歯は歯科が担当しており、「頭頸部外科」は脳、眼窩・眼球、歯を除いた頭頸部の腫瘍を中心とする手術を行う領域と考えられます。耳や鼻の外科も広義には頭頸部外科に含まれますが、狭義の頭頸部外科は頭頸部腫瘍外科を指しております。具体的な疾患としては、口腔癌（舌癌など）、咽頭癌、喉頭癌、甲状腺腫瘍、唾液腺腫瘍、頸部良性腫瘍、頸部リンパ節腫脹などが対象となります。当科の診療内容をみても、入院患者さまの70～80%が頭頸部腫瘍で占められており、この1年間の頭頸部腫瘍手術件数も384件（平成23年度）に達しております。詳細につきましては当教室ホームページに疾患の紹介と治療方針、治療成績、手術数、研究業績などを公開しておりますのでご参照ください。今後とも従来の耳鼻咽喉科疾患はもちろんのこと、頭頸部外科領域の疾患の患者さまをご紹介いただけましたら幸いに存じます。



編集後記

とある日に飲み屋で60歳代とおぼしきヘンなおっちゃんとお会った。

男性いわく、健康診断の結果が悪かったので、自宅から9キロ離れた橋まで毎日往復すると決意したとのこと。最初は歩いていたが、今では約20キロを毎日走っている。20年経った今では、炎天下でも100キロくらいは普通に走れる。神戸マラソンは抽選から外れても側道を走り勝手に完走する。

ここまで来ると健康管理を超越している。鉄人？小さな身体から想像もつかない言葉が次々に出てくる。

「君も3年続けてみなさい、世界が変わる！」と言われ、酔いの不覚が一瞬迷うが、すぐに現実を引き戻された。習慣になれば強い。何を習慣にするかが人を変えるのだと感慨深く、店を後にした。(M.M)

医療連携室ご利用の案内

医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

- 平日／8:30～16:00
- 土曜日／8:30～12:00

※第2・4土曜日は休診です。

※FAX受付は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

送信先

FAX. 072-684-6339

大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター 医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL.072-683-1221(大代表) 内線2308

TEL.072-684-6338(医療連携室直通)

当院専用のFAX紹介申込書、診療情報提供書(紹介状)及び封筒をご用意しております。

お手数ですがご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください。